

農業委員会広報誌

みどりのこだま

第88号

滋賀県大津市御陵町3番1号

発行所:大津市農業委員会

みどりのこだま編集部

令和3年3月15日発行

TEL (077) 528-2680

大津市農業委員憲章 (抜すい)

大津市農業委員は

- 一 農業・農村・農業者の代表者として、新基本法農政の推進に努め、市民の期待と信頼に応えます。
- 一 食料の自給率向上のため、適正な農地行政に努め、優良農地の確保と効率利用を進めます。
- 一 意欲ある担い手を育成確保し、望ましい農業構造を実現するため、農用地の利用集積と集団化に努めます。

農業委員会委員と農業者等との

意見交換会を開催しました

(令和三年一月二十五日)

農業委員と農地利用最適化推進委員、認定農業者や農業組合、朝市グループなどの農業従事者、滋賀県及びレーク大津農業協同組合など延べ85名にお集まりいただき、大津市における農業について、それぞれの地域が抱える課題解決に向けて意見交換会を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、地域ごとに時間帯を分けて、第一部及び第三部は「これからの農業のあり方について」(担い手育成・後継者問題)、第二部では「市街化区域農地の活用について」をテーマとして、10人ほどのグループに分かれて、活発な意見交換を行いました。

新規就農については、相談窓口の充実や農地や資金等に関する情報をもっと多ければよい、就農希望者には地域で丁寧に対応できればよい、といった意見がありました。青年農業者グループからは、新規就農者と積極的に繋がりを図り、関係機関との連携も深めていくとの話がありました。

農業だけでなく、集落をいかにして維持していくかという課題に対しては、若い人に残っていたり、若くして努力する、若い人に、大型特殊免許の取得促進やトラクターの実践練習を予定している事例も紹介されました。

市街化区域は宅地化が進んでいることから、子ども達にとって、米ができる様子を身近に感じる環境が必要といった意見もあり、生産緑地制度の話題もあがりました。

草刈など保全管理については、若い人に草刈だけでもしてもらえないような環境づくりの必要性、町内で機械を所有している場合もあるので活用できる、農家間で機械に関する情報をもっとオープンになればやりとりができる、などの意見がありました。

その他にも、担い手不足は否めないが、地域でもっと話し合うべき、儲かる農業を実践している人の事例をPRしてはどうか、また、団体・組織では、細やかな対応が可能、地域の受け皿になれる、他市町で導入している農泊や農地付き農家住宅の制度で、人と人との交流の促進や、外から人を呼び込むようにしてはなど、さまざまな意見があがりました。

「地域や集落の課題」について話し合いました

農業委員会では、「地域の農地利用を地域全体で考えること」が非常に重要と考えております。

農業委員と農地利用最適化推進委員が、大津市やレーク大津農業協同組合等の関係機関と連携して、「人・農地プランの作成」「地域農業のあり方」等について、地域や集落での話し合いを促進していき、積極的に関わってまいりますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

「地域の中心となる経営体」「担い手への農地の集積・集約」「集落の農業者の役割」「地域ブランド作物の栽培」等について地域や集落全体で話し合っており、みんなでかけがえない農地を荒らさずに守っていきましょ。

「遊休農地にしないことが大事です」

